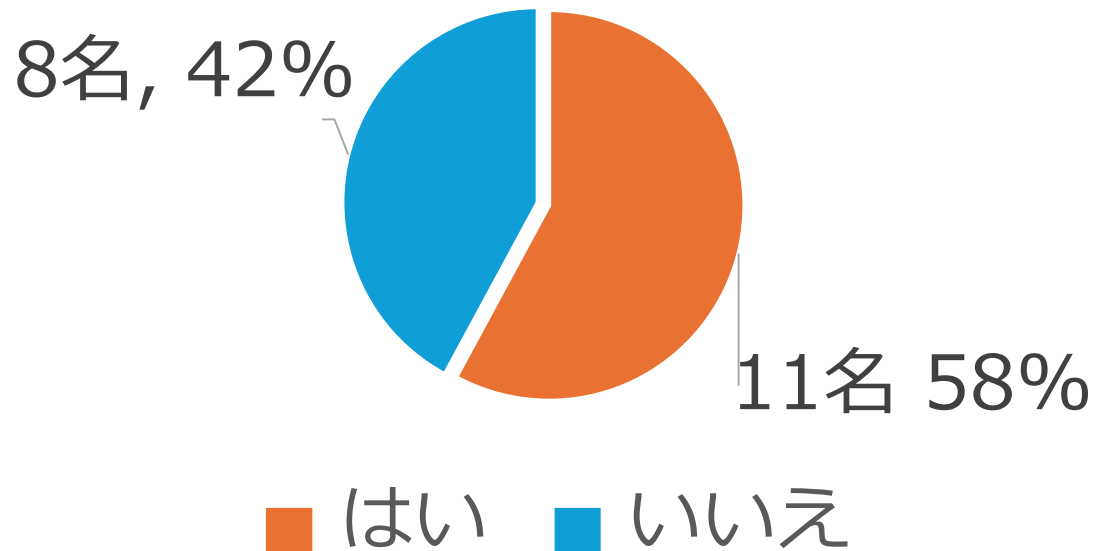


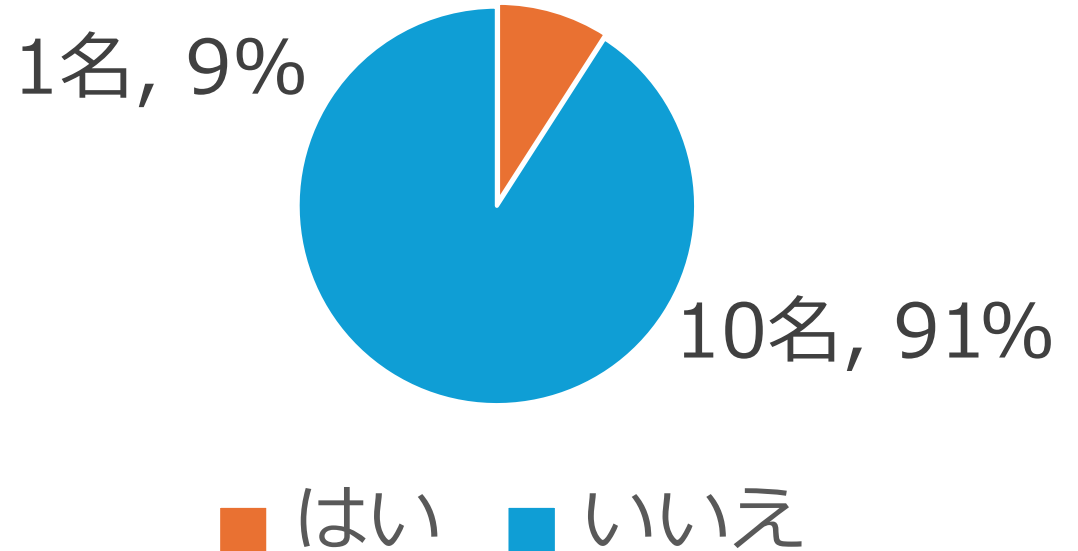
三重県南部における医療的ケア児の家族の 災害への意識と抱える課題に関する アンケート調査 (令和3年10月)

- 対象者：松阪以南の6市10町に所在する0歳～20歳未満の医療的ケア児及びその家
- 該当者：41名
- 回収率：46% (19名)

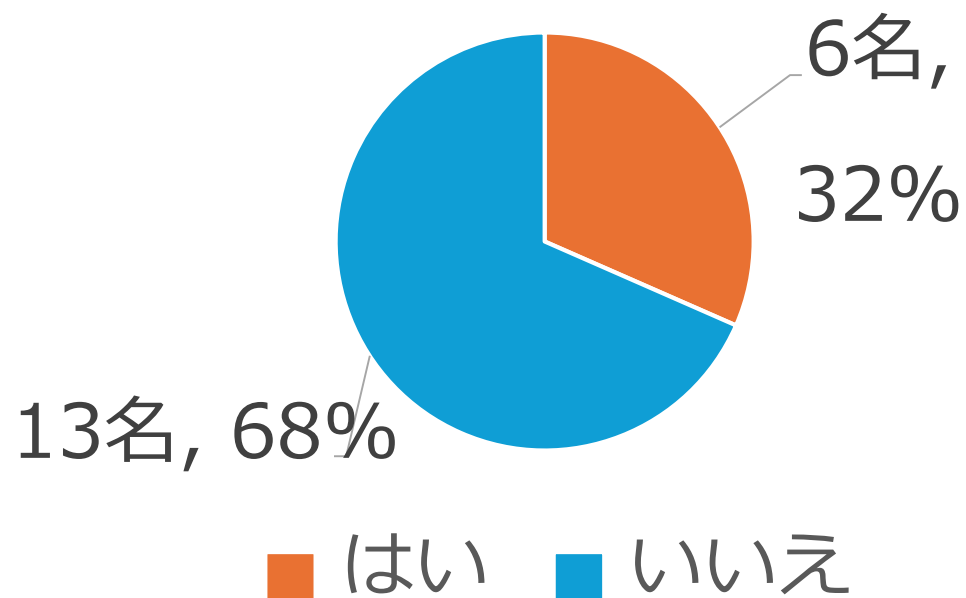
避難行動要支援者名簿へ 登録している人数



登録済の11名中 個別の避難計画を作成している人数



地域の避難訓練に 参加した経験のある人数



参加しない理由

- 訓練があること自体知らない
- 新型コロナの影響で開催されなかった
- 本人を連れての訓練の参加は難しい
- 自宅のほうが安全だと思う

個別避難計画の作成における課題

- 避難行動要支援者名簿への登録は6割程度で、その内個別避難計画を作成している人は僅か1名であった。
- 登録しない理由としては7割以上が避難行動要支援者リストを知らなかった。
- 地域の避難訓練において経験者3割程度で、訓練に関する情報の伝達不足や不安、参加への困難さを抱えていた。

3 市町 個別避難計画 作成手順・課題

回答市町	計画作成について		課題等
	手順 ①誰が主体となって ②どう作成するか	計画作成する順番 例) ハザードマップによる危険区域から／順番は決まっていない 等	個別支援計画作成する上での課題は
熊野市	①3課(福祉・高齢・防災)と地域住民で協力し ②訪問の上聞き取り調査を行い、作成する	津波の被害想定地域や、紀伊半島大水害時に被害が大きかった地域を考慮して順番を決めている。	人員不足のためなかなか作成につながらない
御浜町	①自主防災組織が主体となって ②訪問の上聞き取り調査を行い、作成する	順番は決まっていない。	自主防災組織の取り組み状況により、作成状況が異なっている。
紀宝町	①福祉課および防災対策課職員が主体となって ②地域の自主防災組織や関係機関と連携を図りながら訪問の上聞き取り調査を行い、作成予定。	ハザードマップによる危険区域から優先して作成予定。	人員不足のためなかなか作成につながらないが、要支援者名簿に基づき、対象者の精査や抽出作業を進める。